

2015年10月26日

報道関係各位

**2015年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)「プロジェクト未来」
研究助成金の採択者決定について**公益財団法人 日本対がん協会
会長 垣添 忠生

謹啓

平素は小協会の活動にご理解をいただき、ありがとうございます。

小協会が、がんサバイバーや家族、支援者の方々と一緒に活動しています、がん征圧・患者支援イベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)」に寄せられた寄付をもとにした表題の研究助成が、10月15日、別紙のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

謹白

RFLJ「プロジェクト未来」研究助成金とは

公益財団法人日本対がん協会(会長・垣添忠生)は、RFLJに寄せられる寄付を基に、がん研究を助成するRFLJ「プロジェクト未来」研究助成金を2012年に設けました。この助成金は画期的な治療法につながる期待できる基礎的な研究、そうした成果を臨床につなげる研究や患者のQOLの向上などを患者側から支援しようというものです。日本の優れた研究をいち早く患者のもとに届けるため、この助成金を使って欲しいというRFLJ参加者である、患者・家族・支援者たちの切なる願いが込められています。

【助成金】

- ・総額: 1件あたり最高300万円/年(総額2000万円以内)
- ・対象: がんに関する基礎研究・臨床研究、患者・家族のケアに関する研究
- ・選考: 日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床癌腫瘍学会の協力のもと、同会員、RFLJボランティア実行委員代表らで構成する審査委員会で審査する。

「リレー・フォー・ライフ(RFL)」とは

RFLは1985年にアメリカ対がん協会(ACS)の医師が始めたイベントです。この医師はマラソンが得意だったことから、がん患者さんの生きる勇気をたたえ、支援するために何かできないかと考え「がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージにグラウンドを24時間走り続け、がん患者支援のための資金を集めるため、トラックを1周する毎に寄付を募りました。

日本では日本対がん協会がACSからライセンス認可を受け、2006年に茨城県つくば市で試行し、2007年から本格的に開催しています。その後は年々増え、今年は47カ所での開催が予定されています。

がん征圧・患者支援のための寄付を募るのが主目的ですが、患者・家族・支援者・医療者の方々の交流の場にもなっています。

この件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

■日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ・ジャパンチーム 担当:中島(電話 03-5218-4771)

以上

リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)「プロジェクト未来」研究助成金 2015年度 採択者

I 分野(基礎研究・臨床研究) 合計:1500万円

(五十音順、敬称略)

申請者名	所属	申請テーマ	助成金額
青木 正博 (アオキ マサヒロ)	愛知県がんセンター研究所 分子病態学部	がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築	200万円
梅田 雄嗣 (ウメダ ユウジ)	京都大学大学院医学系研究科 発達小児科学	小児固形腫瘍共通の細胞表面抗原をターゲットとした新規抗体治療の開発	200万円
奥野 友介 (オクノ ユウスケ)	名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター	次世代シーケンスによる小児急性リンパ性白血病治療成績の改善	100万円
神奈木 真理 (カナギ マリ)	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 免疫治療学分野	成人 T 細胞白血病の発症予防ワクチンの開発	200万円
駒野 淳 (コマノ アツシ)	国立病院機構 名古屋医療センター 総合診療部 臨床検査科	成人 T 細胞白血病ウイルスを体内から除去する方法の開発	100万円
田中 正光 (タナカ マサミツ)	秋田大学大学院医学系研究科 分子生化学講座	中皮細胞の鎮静化による消化管癌の浸潤・播種抑制療法の開発	200万円
月田 早智子 (ツキタ サチコ)	大阪大学大学院 生命機能研究科/医学系研究科	胃上皮細胞タイトジャンクション(TJ)を構築する、膜貫通蛋白質クローデイン(Cldn)18の、ノックアウトマウス解析からみた炎症がんの発生機序	100万円
長山 聡 (ナガヤマ サトシ)	がん研有明病院 臨床研究部及び大腸外科	腸内細菌叢の変化による大腸癌発生のメカニズムの解明	100万円
能正 勝彦 (ノウショウカツヒコ)	札幌医科大学 消化器・免疫・リウマチ内科学	消化器癌の発癌予防や個別化治療を目指した常在微生物群ゲノムの解析	100万円
原田 浩 (ハラタ ヒロシ)	京都大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学/画像応用治療学	UCHL1-HIF-1 依存的ながんの遠隔転移を抑制する治療法の開発	100万円
山本 博幸 (ヤマモト ヒロユキ)	聖マリアンナ医科大学 消化器・肝臓内科	B型肝炎ウイルスゲノム組み込みとエピゲノム変化を標的とした肝癌の本質的病態解明と革新的臨床応用	100万円

II 分野(患者・家族のケアに関する研究) 合計:500万円

(五十音順、敬称略)

申請者名	所属	申請テーマ	助成金額
明智 龍男 (アケチ タツオ)	名古屋市立大学大学院医学系研究科 精神・認知・行動医学分野	小児がん患者・家族に対する新たなサポートシステムおよびケア方法の開発研究	50万円
内富 庸介 (ウチミ ヨウスケ)	国立がん研究センター 支持療法開発センター	抗がん剤治療中止時期の患者への質問促進パンフレットの開発	70万円
遠藤 源樹 (エントウ モトキ)	東京女子医科大学 衛生学公衆衛生学第二講座	中小企業における、がんサバイバーの病休・復職・退職等大規模実態調査と復職支援への応用	50万円
北野 敦子 (キタノ アツコ)	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	-母と子、ふたりの命を救う！ - 妊娠期癌ホットラインおよび診療ネットワーク開発に関するアクションプラン	80万円
里見 絵理子 (サミ エリコ)	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科	患者の支援ニーズに基づいた未成年の子供をもつがん患者を支援するためのプログラムの開発	50万円
清水 研 (シズミ ケン)	国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科	造血幹細胞移植後のサバイバーを対象とした精神的ケアに関する研究	50万円
津端 由佳里 (ツバタ ユカリ)	島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科	高齢がん患者に対する治療の最適化を指向した総合的機能評価ツール(CGA; comprehensive geriatric assessment)の開発	50万円
津村 麻紀 (ツムラ マキ)	法政大学 現代福祉学部 平塚共済病院 呼吸器科 (緩和医療チーム)	総合病院のがん患者、その家族およびがん医療に携わる医療従事者のための心理職による援助活動モデルの検証に関する研究	50万円
古屋 充子 (フルヤ ミツコ)	横浜市立大学 分子病理学講座	新しい家族性がん【バート・ホッグ・デュベ(BHD)症候群】の包括診療	50万円